

エコアクション21（EA21）

# 環境活動レポート

2011年度

（2011年2月～2012年1月）

承認	作成
岩崎 （厚）	澤田

作成：2012年4月30日

改定：2012年9月26日

株式会社 小名木川ギヤー

# ．組織の概要及び略歴

## 会社概要

### 1．事業所名及び代表者

株式会社 小名木川ギヤー  
代表取締役社長 岩崎 厚三

### 2．所在地

本社： 〒135 - 0003 東京都江東区猿江1 - 2 - 7  
(審査対象外) TEL 03 - 3631 - 0037(代)  
FAX 03 - 3635 - 0868  
E - mail [ong@green.ocn.ne.jp](mailto:ong@green.ocn.ne.jp)

千葉工場： 〒299 - 4111 千葉県茂原市萱場1525番地  
TEL 0475 - 34 - 4536(代)  
FAX 0475 - 34 - 4568  
E - mail [ongchb@peach.ocn.ne.jp](mailto:ongchb@peach.ocn.ne.jp)

大網分工場： 〒299 - 3251 千葉県山武郡大網白里町大網1803番地  
TEL 0475 - 73 - 1816  
FAX 0475 - 73 - 1816

### 3．E A 2 1 責任者・連絡先

管理責任者 常務取締役工場長 澤田 長師  
連絡先 環境事務局 生産管理部長 並木 輝夫  
TEL 0475 - 34 - 4536  
FAX 0475 - 34 - 4568  
E - mail [ongchb@peach.ocn.ne.jp](mailto:ongchb@peach.ocn.ne.jp)

### 4．事業の規模

従業員数 97名(2012年1月)  
売上高 2,312 (百万円) / 2012年1月期  
敷地面積 本社 366㎡  
千葉工場 6,982㎡  
大網分工場 1,340㎡  
床面積 本社 195㎡  
千葉工場 3,707㎡  
大網分工場 842㎡

### 5．会社沿革

当工場の沿革を次に記述する。

大正9年 東京本所区錦糸町に岩崎鉄工所として創業。諸機械及び歯車の製作を開始。

昭和6年 深川区千田町に移転。小名木川ギヤー製作所に社名変更。歯車専門メーカーとなる。

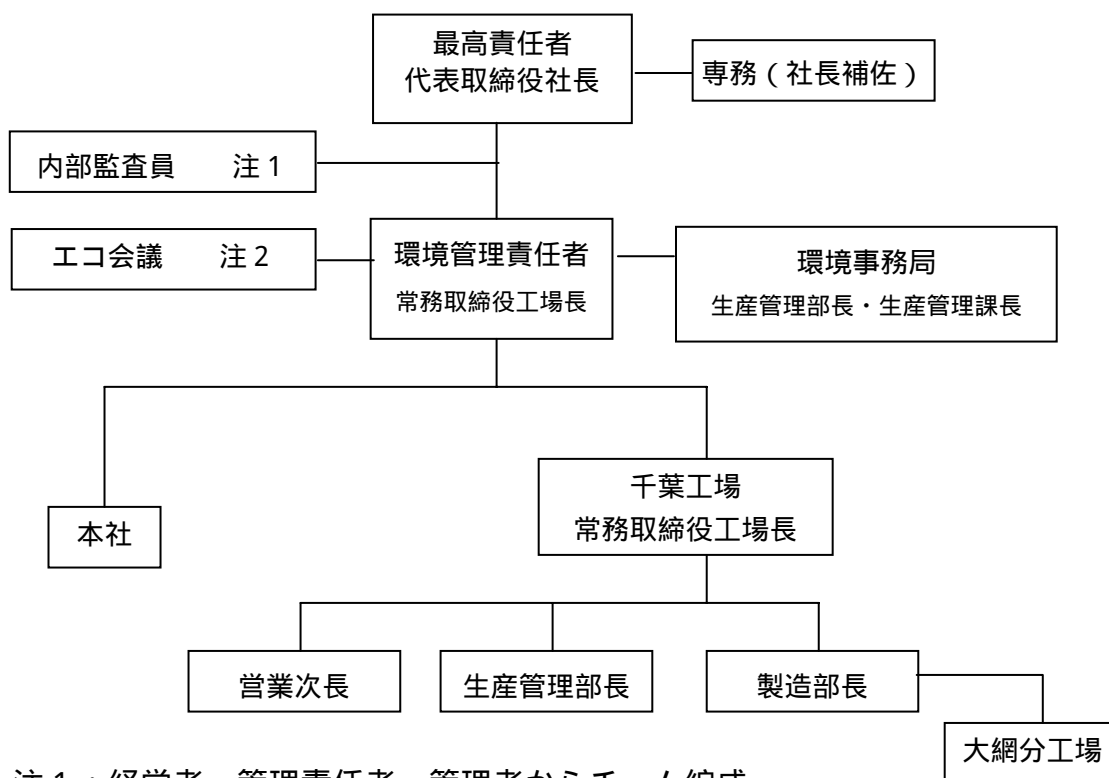
昭和19年 深川区猿江町に本社、工場を移設。

- 昭和24年 合資会社小名木川ギヤー製作所として法人化。資本金50万円。
- 昭和50年 株式会社小名木川ギヤーに改組。資本金2000万円。
- 昭和56年 千葉県茂原市に千葉工場を建設。
- 昭和61年 製造業務をすべて集結。
- 平成2年 日立製作所製オフコンを導入。生産管理を稼動。
- 平成12年 クライアントサーバシステム新生産管理システムを稼動。
- 平成15年 ホームページ公開（URL：http://www.onagigawa.co.jp/）
- 平成16年 千葉県山武郡大網白里町に大網分工場開設。
- 平成19年 改良生産管理システムを稼動。

## 6. 現在の事業内容

歯車製造業として材料（主として鋼材）調達から、機械加工、熱処理（取引先に外注）、表面処理（取引先に外注）、梱包、輸送までの一貫した事業を行っている。

## 7. 環境組織図



注1：経営者・管理責任者・管理者からチーム編成

注2：委員長：管理責任者、委員；社長・専務・顧問・部門長

## ・対象範囲

対象は千葉工場(大網分工場を含む)であり、本社は適用を限定する。  
次回、更新時に全社適用範囲で認証登録する。

## ．環境方針

### 基本理念 - 我らの地球を守ろう！ -

当社は、地球環境保全が全人類にとって最大重要課題であることを深く認識し、事業活動のすべての面で環境に配慮した行動に努め、同時に地域社会との調和を保ちながら事業を推進・発展させていくことを目指します。

### 基本方針

- 1．歯車製造の事業活動を通じて環境経営システムを構築し、人と地球に優しい事業活動の推進と環境負荷の低減に努めます。
- 2．環境に関する法規制を遵守し、環境汚染の防止と環境保全に努めます。
- 3．当社が行う環境活動は、以下を重点的に行っていきます。
  - 1) 工場、事務所内での省資源・省エネルギーの取り組み
  - 2) 生産活動にともなう加工不良、廃棄物、排出物の削減
  - 3) 調達品のグリーン購買
- 4．本方針に基づき環境目標を定め、環境活動計画に従って自主的かつ積極的に活動を展開するとともに、必要があれば環境方針の見直しを実施します。
- 5．本方針を従業員および協力企業に周知するとともに、当社の活動を示した環境活動レポートを作成し、社外に公表します。

2012年1月25日  
株式会社 小名木川ギヤー  
代表取締役社長 岩崎 厚三

# 環境目標

## 1. 環境負荷の実情

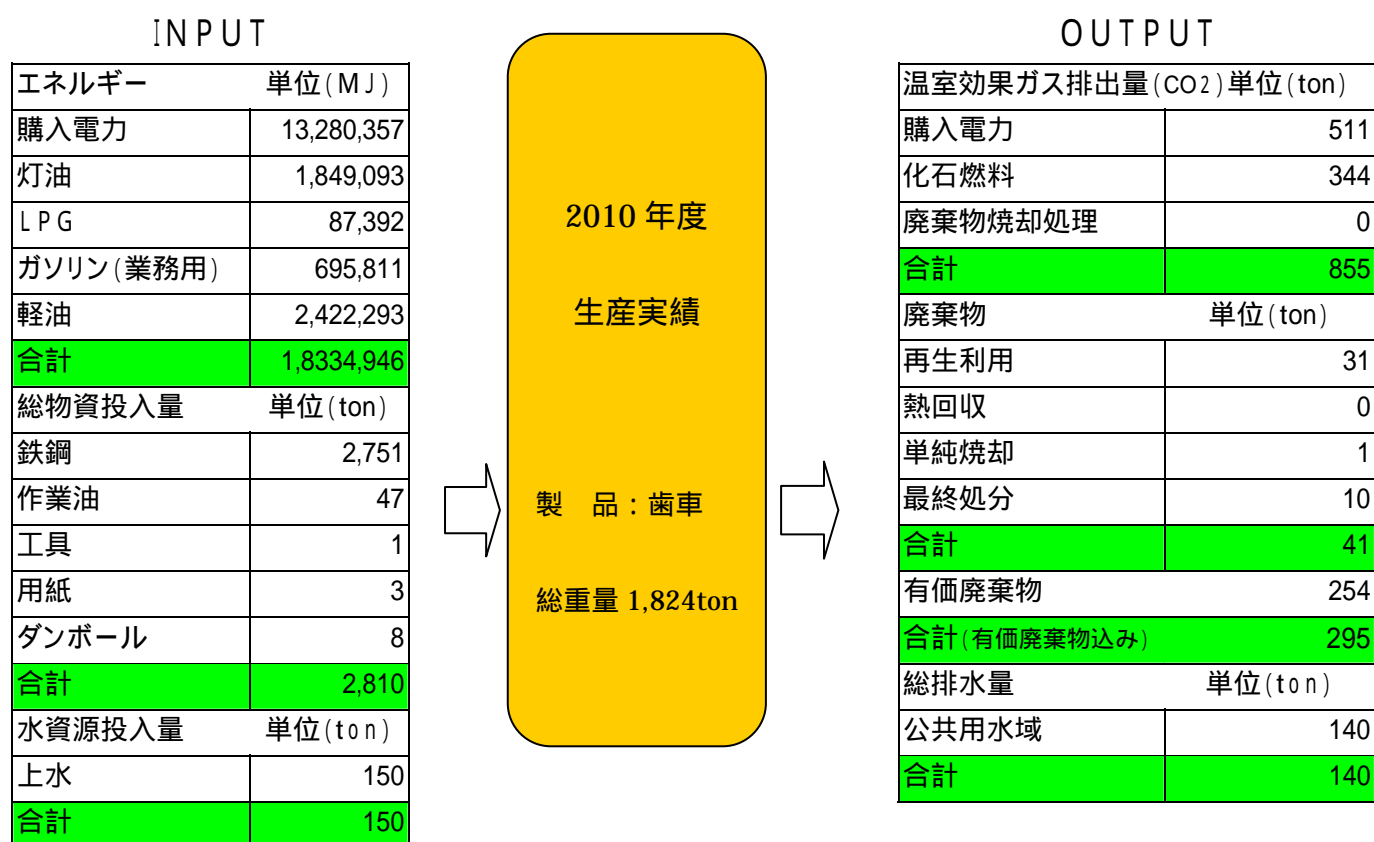
2010年度千葉工場における環境負荷(電力及び化石エネルギー使用量、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量及び総排水量)の実情は次の通り。

項目	単位	2010年度
電力使用量	kwh/生産量	740.52
灯油使用量	L/月	4,198
ガソリン・軽油使用量	L/生産量	45.78
LPG使用量	kg/月	145
二酸化炭素排出量	ton/生産量	0.469
一般廃棄物排出量	kg/生産量	7.3
産業廃棄物排出量	kg/生産量	22.03
総排水量	m <sup>3</sup> /延人員	0.061

注1. 2010年度は2010年2月～2011年1月の実績

また、2010年度の環境マテリアルバランスは次図の通り。

環境マテリアルバランスとは、事業活動による環境負荷を低減することを検討するために、資源やエネルギーなどの投入量及び二酸化炭素や廃棄物などの排出量を算出し、図式化した一覧表である。



CO<sub>2</sub>生産比率(CO<sub>2</sub>排出量1トン当たりの生産重量高比)を算出し、この指数を毎年改善していく。2010年度の実績は、製品重量1,824(ton)/CO<sub>2</sub>排出量855(ton)=2.13

## 2. 環境目標

2011 年度から環境目標は、いずれの項目とも前年度の実績を基準として活動を行うこととし、その低減率を下表のように設定している。

2011 年度も同じく下表のとおり設定した。

項目	単位	2011 年度	2012 年度	2013 年度
電力使用量	kWh/生産量	718.3	696.5	12 年度から 3 % 減
灯油使用量	L/月	4073	3951	同上
ガソリン・軽油使用量	L/生産量	44.41	43.08	同上
LPG 使用量	kg/月	140	136.5	同上
1. 二酸化炭素排出量	ton/生産量	0.455	0.441	同上
2. 一般廃棄物排出量	kg/生産量	6.94	6.59	12 年度から 5% 減
3. 産業廃棄物排出量	kg/生産量	20.93	19.77	12 年度から 3% 減
4. 総排水量	m <sup>3</sup> /生産量	0.058	0.055	同上

## ． 主要な環境活動計画の内容

No.	項目	目標値	改善活動の内容
1	電力使用量	前年度実績 3%低減	昼休み・不在場所の消灯（月4回程度巡回点検） 工場事務所のエアコン適温化（夏季：28、冬季：20） 電気ストーブ周りの適温化（足元温度：25以下） エア配管系のエア漏れ点検修理
2	灯油使用量	前年度実績 3%低減	昼休み・不在場所の消火（月4回程度巡回点検） 灯油ストーブ周りの適温化（室温：20以下） 洗浄油再利用の活性化
3	ガソリン・軽油 使用量	前年度実績 3%低減	輸送ルートの事前検討励行（運行管理者による日常指導） フォークリフト省エネ運転励行（管理者注視による指導） 社有車の計画的運行 省エネ社有車の導入
4	LPG使用量	前年度実績 3%低減	ガスストーブ周りの適温化（室温：20以下）
5	一般廃棄物排出量	前年度実績 5%低減	梱包緩衝材をリユース材への変更 コピーの縮減、裏紙利用促進 分別励行による可燃物縮減
6	産業廃棄物排出量	前年度実績 3%低減	廃油リユース 産業廃棄物の適正処理 工事排出物の業者指導（発生都度実施） 破損パレット返却励行
7	総排水量	前年度実績 5%低減	蛇口付近に節水励行札取り付け 節水コマの取付け 朝礼等にて啓蒙活動
8	調達品のグリーン 購買	事務用品に適用	注文時にグリーン用品を指定 納入品のグリーンマーク確認

尚、本日も認証登録の対象とする活動準備を行なった。

活動内容は電力および一般廃棄物の排出量の実績の把握である。

## ． 2011年度における環境目標とその実績

2011年度の目標に対する実績は次の通り。

項目	単位	目標値（月）	実績	判定
電力使用量	kWh/生産量比	718.3	338.958	達成
灯油使用量	L/月	4,073	4,371	未達成
ガソリン・軽油使用量	L/生産量比	44.41	17.969	達成
LPG使用量	kg/月	140.72	130	達成
二酸化炭素排出量	ton/生産量比	0.455	0.206	達成

一般廃棄物排出量	kg/生産量比	6.94	2.893	達成
産業廃棄物排出量	kg/生産量比	20.93	6.367	達成
総排水量	m <sup>3</sup> /実働延人員	0.058	0.046	達成
調達品のグリーン購買	件数	事務用品全点	OK	達成

二酸化炭素排出係数：0.378使用

2011年度の環境マテリアルバランスは次図の通りとなった。

### INPUT

エネルギー	単位(MJ)
購入電力	15,178,048
灯油	1,925,006
LPG	78,529
ガソリン(業務用)	560,025
軽油	2,508,517
<b>合計</b>	<b>20,250,127</b>
総物資投入量	単位(ton)
鉄鋼	4,821
作業油	63
工具	1
用紙	3
ダンボール	7
<b>合計</b>	<b>4,895</b>
水資源投入量	単位(ton)
上水	1,424
<b>合計</b>	<b>1,424</b>



### OUTPUT

温室効果ガス排出量(CO <sub>2</sub> )	単位(ton)
購入電力	592
化石燃料	348
廃棄物焼却処理	0
<b>合計</b>	<b>938</b>
廃棄物	単位(ton)
再生利用	29
熱回収	0
単純焼却	11
最終処分	4
<b>合計</b>	<b>44</b>
有価廃棄物	261
<b>合計(有価廃棄物込み)</b>	<b>305</b>
総排水量	単位(ton)
公共用水域	1,204
<b>合計</b>	<b>1,204</b>

この表から、CO<sub>2</sub>生産比率(CO<sub>2</sub>排出量1トン当たりの生産重量高比)を算出した結果は、製品重量(4,555ton)/CO<sub>2</sub>排出量(928ton)=4.856となった。

2010年度がのため、低下してしまっただが、原因は年度前半までは昨年来からの景気上昇による生産量の増加、年度後半は受注量が予想を大きく上回って増加したために生産体制整備が間に合わず、時間外労働と急遽社員を採用したことが影響したものであり、今後徐々に生産体制と生産管理の改善を図り修復していく予定である。



# ．環境保全活動の取組み結果の評価と次年度取組みについて

## 1．2011年度の目標に対する評価

二酸化炭素排出量：目標値を達成できました。

電力使用量：目標値を達成でき間した。

灯油使用量：目標値をわずかにオーバーしました。気温が例年より低く暖房機具を使用する期間が長かったのが原因であると思われる。

ガソリン・軽油使用量：活動計画が順調に実行され目標値をクリアできた。

LPG使用量：目標値を達成できました。

一般廃棄物排出量：目標値を達成できました。全般的に排出量は確実に減少している。梱包緩衝材を従来の紙のダンボールからリユースできるプラスチックダンボールに切替しているために実績が挙がってきている。昨年同様事務用コピー紙の裏紙使用も確実に実行されつつある。

産業廃棄物排出量：目標値を達成した。

総排水量：従業員に対する啓蒙活動を実施したことにより、達成できた。

## 2．内部監査・外部監査の結果

### 1) 内部監査

年度計画どおり 2011 年 12 月 14 日に実施した。

その結果の不適合指摘項目に対しては、全て期限どおり是正処置が施され、その後のマネジメントレビューで了承された。

### 2) 外部監査

活動中、ある程度良好な実績が得られていたので、外部監査は実施しなかった。

外部からの要求もなかった。

以上の結果、環境方針・環境目標は現状維持することにした。

## 3．次年度取組内容

全体的には現状の取組内容を継続する予定です。

次年度、新たに取組む項目として、次の内容を決定した。

1) 本社を活動の対象として追加する。

2) 活動 2 年目となる加工不良の低減を拡大し、省資源化を図る。

3) 事務所を新築することで、照明・空調設備に省エネ資源を取り入れて、電力・灯油・LPGの大幅削減化を図る。

### 3. 環境への取組みの自己チェック

2010年度と2011年度のチェック結果を下表に示す。

いずれの項目も評価結果に問題はないと思料する。これは、全従業員を巻き込み、トップマネジメントととして取り組むことができている証と評価している。

現時点で取組の必要な項目は概ね満足できる状態と判断しているために、維持管理を継続していく所存である。

項 目	評 価 点	
	10年5月 (前年度)	11年12月 (今年度)
1. 事業活動へのインプットに関する項目	72/97	97/97
2. 事業活動からのアウトプットに関する項目	34/62	42/79
3. 環境経営システムに関わる項目	60/68	
4. 製品及びサービスに関する項目	21/42	21/44
5. その他	16/32	16/32
合計評価点	168/208	176/252

2010年度と2011年度で項目が相違するのはガイドラインが2004年版から2009年版に変わり、それに伴ってチェックシートが変更されたためである。

# 環境関連法規の遵守状況並びに違反、訴訟等の有無

## 1. 法規制遵守状況の適合性評価

適用を受ける環境法規制とその遵守状況を下表に示す。いずれの法規制に対しても問題なく遵守している。

### 環境法規制一覧表及び遵守状況調査表

No	適用法	規制値基準値	届出が必要な施設等	対象作業	記録類			備考	調査結果
					記録名	頻度	保管期限		
1	工場立地法	下記	生産施設 緑地面積等	規制基準遵守及び 施設の届出	なし	なし	なし	無指定 地域	届出・規制対象外 (下記参照)
2	消防法	下記	生産施設	施設の届出	なし	なし	なし	法規制施行時 期以前の建築 のため対象外	規制対象外 (下記参照)
3	廃棄物処理法	なし	なし	産業廃棄物 1.保管基準遵守 2.業者委託契約 3.マニフェスト伝票管理	マニフェスト伝票	発生都度	5年		遵守OK (対象作業欄3項目 ともOK)
4	自動車NO <sub>x</sub> ・ PM法	なし	なし	排出基準適合車	なし	なし	なし	ディーゼル車	遵守OK (適合車使用)
5	自動車リサイクル法	なし	なし	廃棄時適正処分	適正処分 証明書	発生都度	3年	社有車	遵守OK
6	家電リサイクル法	なし	なし					家電製品 4品目	
7	パソコンリサイクル法	なし	なし					パソコン	
8	フロン回収破壊 法	なし	なし	廃棄時適性処分	回収依頼書	発生都度	3年	・エアコン ・コンプレッサ	発生なし

#### [工場立地法]

1) 届出対象 敷地面積 9,000 m<sup>2</sup>以上 又は 建築面積 3,000 m<sup>2</sup>以上

[千葉工場 敷地面積 6,982 m<sup>2</sup>、建築面積 3,707 m<sup>2</sup>]

2) 規制値 (1)敷地面積に対する生産施設の割合 40%以内

[千葉工場 第1～3工場合計 2,290 m<sup>3</sup> により生産施設の割合 33%]

(2)敷地面積に対する緑地面積の割合 10～20%以上

[ " 立木、芝生、植込等 ]

(3)敷地面積に対する環境施設面積の割合 15～25%以上

[ " 上記プール、運動施設等 ]

当工場は「無指定地域」につき、上記の届出・規制値は対象外。

(建築面積が届出対象の面積であるが、同理由により届出対象外。)

#### [消防法規制値]

1) 工場壁 耐火材料。現状はスレートで耐火材料として認められていない。

2) 工場周囲建築物 工場外壁と周囲建築物との間隔は3m以上。現状は一部3m以下のものあり。

3) 工場内機械配置 工場内壁と機械の間隔は3m以上。現状は一部3m以下あり。

以上の規制値は平成元年 2 月 23 日施行である。当工場の建築及び機械配置は、この施行日以前に建築・配置しているため適用外。今後、増改築及び機械配置する場合には適用する。

## 2 . 利害関係者による評価

今期中（2011 年 2 月～2012 年 1 月）は利害関係者による指摘・評価等なし。

## 3 . 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法規に対しての違反を調査した結果、違反はありません。また、関係当局及び利害関係者からの訴訟・指導・苦情等は、過去 5 年間ありません。

## ・ 代表者による全体評価と見直しの結果

内部監査実施後に 2012 年 1 月 14 日にマネージメントレビューを開催し、環境方針、環境目標、環境改善活動計画とその実績及び環境組織が適正に運用及び実施されていることが確認された。その結果以下の指示があった。

環境方針： 環境方針が環境目標や活動計画に反映され問題がないため、次年度も同様の方針にする予定。

環境目標： 環境目標の内容及びその達成状況も概ね良好な結果であったと評価する。

マネージメント全体の取組み

： 活動計画、教育計画に則り、良好な状況で推移しており、その努力に感謝する。但し、次の 2 件について総意努力すること。

油水分離層の保守点検手順書を早急に作成すること。

内部監査で観察項目となった「フォークリフト省エネ運転励行」の具体的な実施項目を明確にすること。